

編集・発行

社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL: 098-884-3173(代) FAX: 098-882-5688

mail: o.fukusi@okinawa-j.jp HP: http://www.okinawa-j.jp/



みんなが集う食事時間 ～グループホームほくれい～



地域住民に見守られて
グループホームの日常

グループホームほくれい
サービス管理責任者 田仲 康秀
たなか やすひで

平成28年8月1日、那覇市首里石嶺町の石嶺市営住宅（通称・石嶺団地）に共同生活援助事業所「グループホームほくれい」として那覇市の指定を受け、2階に男性、3階に女性がそれぞれ3名ずつ合計6名の方が生活しております。

石嶺団地は、全部で18棟あり、約千名の住人がおります。その7号棟の2、3階にグループホームは設置されており、北嶺学園から車でおよそ5分の距離にあります。

グループホームは、精神や知的に障害のある人たちが、家事支援などを受け、自宅と同じような環境のもと共同で生活していく場です。グループホームでの生活は、世話人の協力を得ながらも、できるだけ自分の力で生活していくことを前提に行われています。食事の準備は世話人がサポートし、掃除や洗濯はできるだけ自分で行うようにしております。又、世話人

入居者は、全員が地域の作業所や一般就労に通いながらグループホームでの生活を送っておりますので、みんなが集う食事時間になりますと、それぞれが一日の出来事を話し合いながら楽しい時間を過ごしております。また、入居者の休日は、それぞれ違いますが、休みの日にはほとんどの方が外出し、買い物や食事などを楽しんでおられます。

入居者一人ひとりが、社会的自立に向けて頑張っております。これからも未永く見守って下さるようお願い致します。

児童養護施設での公益的取組について 「学習支援事業」「社会的自立を支援する事業」の取り組み



児童養護施設
漲水学園
副園長 奥原 一秀
おぐはら かずゆき

平成28年4月施行の改正社会福祉法に伴い、当法人も公益性や地域への貢献事業の取り組みが必要となっていることから、今年度より法人事務局と当園とで2つの事業を開始する。

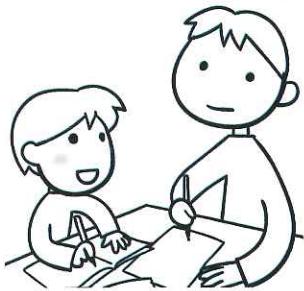
1つ目は、児童養護施設の地域における役割として、宮古島市における生活困窮世帯の児童を施設に招いての学習支援事業である。

週2回(月・火)の夕方6時半から8時半の2時間を、外部講師による学習支援で宿題や授業内容のフォローを通して学習意欲向上を目指すと共に、軽食を提供し地域の児童が気軽に通える場の確保に努めている。また、当園の専門職の機能も活用して児童の家庭との連携、宮古島市との連携を強化し取り組む事で、地域から信頼され相談や交流の拠点になる事を目指している。もう1つの事業は、当園を退所す

る児童の進学や就職を支援する事を目的とする「社会的自立を支援する事業」である。この事業は、施設を退所する児童の自立に向けて、将来の夢や目標が制限される事がないようにとの思いから創設された。

これらの事業は、単なる地域貢献という視点だけでなく、地域において当施設の専門性を発揮するとしても、これらの事業が、児童、生徒の生活意欲向上や将来的な目標設定の幅を広げるきっかけとなるよう、社会福祉法人として出来る限りの支援を行っていくという思いの表れである。

当施設においても事業推進に職員一丸となって取り組み、地域から信頼される施設として最善の努力をして参りたい。



救護施設における自立支援 「給食会議での語らいを通して」



救護施設
いしみな救護園
栄養士 翁長 真由美
おなが まゆみ

毎日の給食は利用者が一番の楽しみであり、生活リズムの基盤になっています。園での食生活を通して、自立支援に結びつく関わりを持つために、いしみな救護園では給食会議を活用しています。

今年度1回目の給食会議は、9月半ばに開催しました。利用者代表の委員5名を囲んで、園長、管理課長、介護主任に看護師、栄養士に生活指導員と、皆で和やかな語らいの場を持ちました。残食調査の結果や、利用者の健康状態の共有を踏まえて、メ



～コミュニケーションから美味しいメニューが生まれます～

ンバーの自由な発言に任せて、話してもらいます。給食があることへの感謝や食事を残すことへの反省の気持ち、体調や歯に関する悩みなど、食を通して、園での生活全般に関わる利用者の率直な気持ちを聞く事が出来ます。

一番話が盛り上がるのは「食べた料理」について。料理を考え皆に意思を伝えて合意を得、給食に出るのを「楽しみ」にし、食べて「満足」したり「自己肯定感」を感じるといふところが、食生活自立に向けた小さな一歩になっており、利用者からの「希望」に応じたメニューが増えています。

自立意欲が低下し、食べたいものが「無い」と答える利用者がいたら、一度給食委員会に招き、みんなで話を聞いていく中で、支援を検討してみても良いかもしれません。



ソーキそばの給食



てびち煮

私たちの施設内研修



特別養護・養護老人ホーム
名護厚生園
生活支援課長 屋良 利勝

当園の園内研修では、法人の理念を再認識すると共に、福祉サービス従事者としての知識・マナーを習得することでサービスの技術の向上に努め、利用者・家族へのサービス向上に貢献することを目的に、年2回（前期・後期）実施、また職種は関係なく5つのグループに分け、全職員統一した内容の研修を実施しています。

内容としては、倫理綱領・法令遵守・リスクマネジメントの3つは必須、事業報告については前期には前年度の報告、後期には上半期の報告を行い全職員が当園の現状を把握できるようにしています。

最近では職員から夜間の急変時対応が不安との声があり、救急法講習を修了した職員による実技を交えた講義を実施。また外部講師を招聘し「接遇」や「虐待」等についての勉強会も行いました。

今後も職員の声を聴きながら、職員教育に繋がる充実した研修が展開できるように取り組んでいきたいと考えております。



療育音楽を学ぶ



特別養護・養護老人ホーム
具志川厚生園
介護主任 石川 まさえ

10月30日にいしみね救護園において、公益社団法人東京ミュージック・ボラティア協会 理事長 赤星多賀子氏を招いて利用者の日中活動や生活の充実を図る目的で療育音楽に関する研修会が行われました。講師といしみね救護園の利用者が一体になり楽器を使って、懐かしい歌を歌ったり、沖縄ならではのパーランクーを叩くと、利用者・職員が前に出て踊りだす場面もあり、利用者の素敵な笑顔が満ち溢れ、微笑ましくなりました。

療育音楽は、楽器の演奏で指を動かしたり、歌う発声によって呼吸が深くなる等、流れる音楽に合わせて体でリズムをとるながら、心もリフレッシュでき体のリハビリにもなることを学びました。

今回の療育音楽研修で学んだことを参考にしながら具志川厚生園を利用者の喜びと笑顔があふれる施設にしていきたいと思っております。

また、次年度の「のびのび音楽祭」の優勝旗を具志川厚生園に持ち帰ることを目標にし、利用者と共に楽しく取り組んでいきたいと思っております。



九州地区ブロック職員研修会へ参加して



福祉型障害児入所施設
障害者支援施設
あけぼの学園
介護員 石垣 愛子

9月29日から30日福岡市博多にて平成28年度全国社会福祉事業団協議会九州ブロック職員研修会へ参加しました。

1日目は「困難事例解決にむけて」と題し事前に6施設から提出された困難事例を解決するためにどうすれば良いか、これからの日本の未来社会で求められる施設の職員像や脳科学の世界等広範囲に講話がありました。グループ討議では6グループに分かれそれぞれのケース課題を討議し結果をまとめ発表後講師より指摘やアドバイスを頂きました。各施設とも様々な課題があり、解決に至らない事も多く理想と現実のギャップに戸惑いながら日々の業務をこなしているのが現状の様です。2日目は「利用者虐待を考える」と題し、事前に出された質問に答える形の講演会でした。

施設における労働環境が良くなれば、生き生きと仕事が出来、虐待防止を考えるうえで大切であると話されています。各県の方々と意見交換が出来、とても有意義な研修でした。

学んだ事をこれからの利用者支援に役立てて行きたいと思っております。

初級リスクマネジャー養成講座2016（前期）



医療型障害児入所施設
沖繩療育園
介護課長 前田 厚子

11月14日から15日、初級リスクマネジャー養成講座（前期）に参加しました。

研修内容は、リスクマネジメント概論、手法、演習でした。その中で改めて感じた事は、「事故はゼロにならない」。確率の問題で起こるので、「その人を責めてはいけない」。それでは再発防止のスタートに立てなくなってしまう、ということです。叱って注意だけでは何も変わりません。

事故を予防するには、「人は間違える」という事を前提に、人が把握できる範囲を吟味した業務や、支援の仕方を標準化することが必要です。そして、実用的な業務標準書を作成することで、統一した支援を行い、全職員が意識を高めリスクを減らしていくことで、最終目標である利用者の笑顔と満足に繋がっていくのです。今回の研修において、その仕組み、体制を整えることが、管理職の役割であることと痛感しました。

私自身、視野を狭めることなく、ささいなことを見逃さずに、立ち止まり、振り返りながら、気づきの感性を磨き、実践を通して後期の研修に向けての課題に取り組んで参ります。

ICT de 家族交流



特別養護・養護老人ホーム宮古厚生園
介護副主任
なかばやし リエこ
中林 利恵子

宮古厚生園にICTを活用した状態把握システム「MIMOTE」が一月に導入され早や十ヶ月が経ちます。

導入当初は、データを打ちこむ事すら戸惑いながらのスタートでしたが、今ではご家族様が面会に来られた際や園内行事の度に、ICTの端末を使用し利用者の良い表情を写真撮影し三カ月に一回「お便りメール」としてご家族へ発送するなど、データ入力以外でも有効に活用し、ご家族より「ありがとう。」「家に飾っているよ」との喜びの声が届き大変嬉しく思っています。

また、「MIMOTE」を導入したことで、利用者への気づきの場面が増え、どうすれば利用者のケアがスムーズに行えるようになるのか等、職員が共通認識を持つようになりました。一日の業務終了時にまとめ

てデータを入力するため、気づきの場を忘れがちになりませんが、リアルタイムでデータを入力することが出来ればもっと面白い結果が出てくるのではないかと考えています。

職員の一つ一つの気付きが、直接利用者ケアに繋がっており、月一回のフィードバック会議では、入力したデータが結果として表れてくる楽しみもあります。

また、職員が楽しく仕事に取り組む活力にもなっています。これからも介護職員が利用者への変化を見逃すことなく大事にしながら一人一人が輝いていける介護現場でありたいと思います。



観月会 de リフレッシュ



婦人保護施設うるま婦人寮
寮長 藤田 勝己
ふじた かつみ

10月14日、婦人寮の一大イベント観月会が強風が吹き荒れる悪天候の中、開催されました。観月会は単調な寮生活をリフレッシュし、利用者の皆さんの明日への活力と、自立に向けた一助になればとの目的で開催しています。

当日は女性相談所所長、県青少年こども家庭課班長、地域自治会の関係者、社協、民生委員をはじめ、その他多くの関係者の多数の出席のもと、賑やかに開催されました。また、日頃より当施設に対し、理解と支援を寄せていただいている参議院議員も国会開会中の忙しい中参加いただきました。

会の進行は利用者のS親子が担いました。プログラムは利用者の皆さんが仮装姿で出演「ていんさぐの花を三線に合わせて合唱。利用者の皆さんは、一ヶ月近く練習を重ねて本番に臨みました。太鼓の演舞団体若太陽の迫力ある演舞。那覇青少年

年プログラムの児童高校生による若さあふれる力強い演技。クラウンあいるさんによるピエロに扮した、こども向けの風船のバルンアート等、楽しい雰囲気の中での交流・歓談の場となりました。

当日の天気は強風・大雨でテントも吹き飛ばされる程の悪天候で中止も考えましたが、職員の熱意に押され、急遽室内で開催する事を決定しました。時間のない中で飾り付け等の諸準備等、職員の頑張りに感謝です。

施設の持つ特性から他施設のように地域や家族を含めた開催とはなりません。悪天候の中参加いただいた関係者の皆様、ボランティアで演舞出演していただいた若太陽、那覇市青少年プログラムの児童・高校生の皆様に厚くお礼申し上げます。



「のびのび音楽祭」開催



医療型障害児入所施設
沖繩療育園
保育士 田場 貴子

11月17日、沖繩療育園の集団訓練棟にて、事業団7施設と地域保育園生の参加による「第13回 のびのび音楽祭」が開催されました。

「療育音楽」は、音楽をとおして心身機能の回復を図りながら、集団でのコミュニケーション作りに繋げる活動の一環として、多くの事業団施設で取り入れられています。

この療育音楽を取り入れ実施している施設が一堂に集まり、日頃の療育音楽の練習の成果を発表することで、意欲の向上、親睦を図ることを目的に、毎年11月に「のびのび音楽祭」が開催され、今年で13回目を迎えました。

今年も各施設の利用者がカラフルな素敵なステージ衣装で舞台上に



～あずま保育園・きりん組の皆さんありがとう～

上がり、懸命に演奏する姿に、観客席からは、毎回大きな拍手が沸き上がりました。ゲストで参加した「あずま保育園」の子供達の可愛いエイサー演舞に目を細めたり、演奏中に他の利用者が飛び入り参加し、みんなで一緒に演奏に合わせて踊るなど、音楽をとおして会場は大いに盛り上がり、最後は会場が一体になっての「カチャーシー」で盛大に幕を閉じました。



～鮮やかなステージ衣装でダンスも披露～

今年も素晴らしい演奏が聴けました

優勝



よみたん救護園
具志堅 行高さん



1曲目の「海の声をあずま保育園の子ども達が唄ってくれ嬉しくてテンションが上がりました。2曲目の恋のダイヤルでダンスを踊り、応援に来ていたお母さんが褒めてくれました。来年は優勝して皆でバンザイがしたいです。



ピノキオ
森田師代さん

はじめは緊張しましたが馴染みのある「星影のワルツ」を演奏していくうちに、いつも通りできたように思います。「お嫁サンパ」はノリノリで楽しかったです。来年もたくさん練習して頑張ってください。



いしみね救護園
安里典子さん

今回も優勝したいと思いましたが、うちよりも上手い施設が多く良かった。緊張したが練習通りでき、のびのびに参加しとても楽しかったです。



北嶺学園
金城幸子さん

今日のために皆で頑張った練習してきました。お姉さんも沖繩療育園に来てくれた嬉しかったです。また来年も頑張りたいです。ありがとうございます。



沖繩療育園
玉那覇洋子さん

今年も、午後からの参加で、みんなのやっているのをちゃんと見なかったのでも、来年は午前から参加してみたいです。



部屋屋
天願哲康さん

初めて参加したけど緊張もしなかったし楽しかったよ。バスの中でのおしゃべりも楽しかったし、バスから眺める景色も良かったし、普段ない事だから最高だった。「笑うことはいい事だね」



名護厚生園
尾崎初子さん

のびのび音楽祭へ参加できて嬉しいです。音楽を聴くことも歌うことも大好きです。大好きなメンバーで来年も参加することを楽しみにしています。



具志川厚生園
鳩間幸子さん

出演者インタビュー

ストレスチェックについて



事務局
総務課長
西表 敏克
いりおもて としろう

労働安全衛生法の改正に伴い2015年12月1日から労働者50人以上の職場（事業場）が実施義務となった。「定期健康診断とは別に」、労働者のストレスの状況について定期的に検査を行い「本人に結果を通知」、自らの状況に気づきを促し、個々のストレスを低減、併せて検査結果を「集団毎に集計・分析を行い職場のストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげる」となっている。ストレスとは身体に負荷がかかった状態、生理的緊張状態である。

同制度は、厳密な個人情報管理と不利益取扱も禁止され、決してメンタルヘルス不全者捜しではない。しかしながら、労働者50人未満職場は努力義務、受検も労働者任意、高ストレス者の産業医等の面談も希望者のみ、集団分析も努力義務等、課題は多い。

私たち法人は、50人未満職場も含め、全職員（正・非）を対象に実施することを昨年度の理事会、経営対策監会議で決定した（法以上の取組を推進）。事務局は、全職員が参加するよう説明会を開催し周知を図ってきた。すでに調査票が回収され分析（個人・集団）が進められている。結果を基にして、職場・職種毎のストレス度合い、傾向等を把握し次年度に向けた対策づくりに活用して行く。各職場は、衛生委員会等の中で、結果内容の検討と対策づくりを進めていただきたい。

ストレスの少ない快適な職場環境づくりを進めることは、働く職員はもとより「利用者の安心・安全・処遇向上」に繋がっていくものと確信する。

永年勤続表彰者

長きにわたり、福祉の向上に取り組み貢献したことが評価され、その功績に対し14名の当法人職員が表彰を受けました。今後とも、「利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設（法人）」を目指す一員として、各々の役割を担って参ります。

【受賞者紹介】

全国社会福祉協議会 会長表彰
（30年以上勤続者）

知花 進 （事務局 経営対策監）

仲間 勝之 （宮古厚生園 介護員）

平識 咲子 （よみたん救護園 介護員）

第58回沖縄県社会福祉大会 大会長表彰
（25年以上勤続者）

安里 宏子 （沖縄療育園 介護員）

新里 洋子 （八重山厚生園 准看護師）

長浜 真辰 （沖縄療育園 介護員）

奥間 安洋 （八重山厚生園 介護員）

与儀 文博 （漲水学園 管理課長）

渡久地 律子 （15年以上勤続者）

平川 亜紀 （沖縄療育園 介護員）

（相談支援事業所ほくれい 相談支援専門員）

全国社会福祉事業団協議会大会 大会長表彰
（20年勤続者）

前田 厚子 （沖縄療育園 介護課長）

浜田 幸子 （沖縄療育園 管理栄養士）

平良 久仁子 （よみたん救護園 介護員）

上里 育子 （いしみね救護園 管理課長）

永年勤続表彰を受けて



よみたん救護園

介護員 平識 咲子

永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございます。私は事業団へ厨房職員として採用

され現在は介護員として30年間励んで参りました。これも職員の温かいご指導、励まし、支えがあったからこそ今日まで続けることができました。あと数ヶ月で定年になりますが、残り少ない日々、精一杯仕事に従事して行きたいと思えます。ありがとうございました。

永年勤続の感想



沖縄療育園

介護員 長浜 真辰

私が、事業団に就職して早いもので25年になりました。当時は、筆記試験と面接があり、内定の連絡を貰った時のうれしい気持ちは、今でも覚えています。名護厚生園から現在の沖縄療育園まで6度の転勤を繰り返して来ました。その間、良い先輩・同僚、後輩に支えてもらい此処まで務めることが出来ました。

県から民営に移る際、多くの先輩や同僚が退職をされ、同僚も今では数名になり寂しい気持ちもありました。それと同時に、安心して任せられる頼もしい後輩がいることも事実です。今後、一生懸命頑張っている後輩たちが報われる、安心して楽しい職場にして行けるようにと思っています。

最後に、これからも目に見えるものを、一つ一つ大切にして行き、健康にも気を付けて頑張っていきたいと思えます。



施設だより



陶芸教室

地域の親子等をまねいて



救護施設 よみたん救護園

生活指導員 古波蔵

尚子

夏休みも後半となった平成28年8月27日(土)午前、初めての地域向け取組みとして、陶芸教室を開催しました。当日は、同じ地区内にある都屋子会の子供会の子18名が参加し、当園陶芸講師・松尾先生のご指導の下、面シーサーを制作しました。

はじめは平たい円形の土を見つめて表情の硬かった子供たちも、シーサーの顔が形作られるに連れて笑顔が見られるようになりました。また、シーサー完成後は、オリジナル作品の制作に取り組み親子もおり、教室は賑やかで楽しい雰囲気になりました。さらに、当園陶芸班の利用者3名がお手伝いとして参加した他、地域交流スペースにおいては、スカットボールやバレーボールと一緒に楽しみ、良き地域交流の場となりました。さらに、地域へ向け施設理解を深めていただく場として施設見学も行いました。今回、初の試みにも関わらず多数の親子の参加を得たことは、地域貢献の一環として、また、地域へ当園利用者について理解を促す意味でも有意義な取り組みであったと思います。今後も地域の一員として、交流を深める場作りをしていきたいと思



大盛況の作品展示会

障害者支援施設 北嶺学園



管理課長 知念

正剛

10月29日に地域・住民との交流と毎日の日課の成果を発表することを目的に作品展示会を開催いたしました。展示は日課(農園芸、就労、手工芸リサイクル)ごとに展示コーナーを設け、利用者の創作活動を写した写真に説明文を附した紹介パネルを設置しました。

当日は天候にも恵まれ、地域のお客様も開始時刻前から待ちきれず「良いものはすぐなくなるから予約しておこうね」との大盛況ぶりを予感。オープニングは職員・利用者によるエイサーで利用者はゆかたや甚平を着て笑顔で楽しく踊りを披露しました。
手工芸班のサンゴのランプや結びおり、刺し子布巾、クラフトバック等の展示コーナーでは、サンゴのランプが好評で、1人で2つも3つも買っていたとお客様もあり、励みになりました。リサイクル班では、ディスプレイを凝らしながら販売したり、農園芸班ではなかなか思うように作物が育たなかったりと苦勞もしました。
例年2月に行うこの作品展示会ですがインフルエンザの心配がないよう、時期を早めての開催となりましたが、ご家族や沢山の方のご協力で大盛況で開催することができました。大変ありがとうございました。



第16回ふれあいまつり

医療型障害児入所施設 沖繩療育園



管理課長 中本

信次

10月1日(土)の夕方より、当園駐車場を会場とし、隣の福祉施設及び医療機関合同による「第16回ふれあいまつり」笑顔でつながる地域の輪」が開催されました。

はじめに近隣保育園の園児によるエイサーで幕が開けました。園児たちの可愛らしい動きに誘われ、会場の皆様の笑顔がとても印象的でした。当園からは、総勢83名の利用者が「エビカニクス」の軽快な曲に合わせて踊りを披露し、テンポよくリズムカルな踊りで会場が一体となりました。その他にも当園利用者父母の会、福祉施設、医療機関、近隣の自治会などによる余興が披露され、会場は大いに盛り上がりました。目玉の一つであるゲスト余興では、昨年に続きピエロファンキーさんによる変幻自在のバルーンショーで会場が湧き上がり、また、県内で活躍中のアーティスト与那ユウさんの歌声に酔いしれ、余韻が残る中、盛会裏にお開きとなりました。
今回のまつりで司会を担当することとなり不安な気持ちもありましたが、周りのスタッフのサポートにより、心地よい緊張感と貴重な経験をさせていただきました。また、地域の皆様との「つながり」をより身近に感じることができました。来年も多くの方々とのこの場でお会いできることを楽しみにしています。



祝 呉屋清徳前理事長 沖縄県功労者社会福祉部門表彰

平成17年4月〜平成22年迄、当法人理事長を務めました呉屋清徳氏が平成28年度沖縄県功労者(社会福祉部門)として表彰されました。



〜沖縄県功労者表彰式典の一幕

市町村社会福祉協議会の育成・指導や民生委員の前身となる福祉委員制度の創設、多くの福祉団体の育成に尽力した功績に敬意を表し、お慶び申し上げます

職員の話らい



「私の好きな事」

介護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園



介護員 名幸 彩菜

私は絵を描く事が好きです。学生の時はよく授業中に、ノートの隅に落書きしては先生に見つかって怒られてもこっそり描いていました。それぐらい絵を描くことが好きで一年程島を出て絵の勉強をしました。島に帰って来てから私は介護を学びはじめ、現在介護員として働かせて頂いています。八重山厚生園で先輩方に指導して頂きながら自分の好きな事を活かして、利用者の方に誕生日カードを作っています。誕生日にカードを渡した時の利用者の笑顔が好きで、人に喜んで貰うことがとても楽しみです。まだまだ未熟な私ですが、これからも私なりに頑張っていきたいと思



ます。

「私の趣味は縫い物」

障害者支援施設 あけほの学園



介護員 大浜 孝子

私は子どもの頃から縫い物が好きで、母や姉から習い自分で洋服や小物を作って楽しんでいました。想像を働かせ、一枚の布や一本の糸から色々な物を作りあげていく事が一番の魅力です。又使わなくなった生地、物をリメイクして、新しく生まれ変わらせる事が出来た時がとても嬉しいです。また娘の成人の振袖を仕立てました。私の人生の節目を彩ってくれた趣味に出あえた事に感謝してま



す。自分の好きな縫い物で利用者にも作品が出来る喜びを伝えていきたいと思

「全日本トリアスロン宮古島への道」



児童養護施設 漲水学園

児童指導員 兼島 章人

「全日本トリアスロン宮古島大会」。スイム3キロ、バイク157キロ、ラン42、195キロ。鉄人レースと言われる競技に小さいころから憧れがあった。2年前のフィニッシュゲート前、家族でビールを飲みながら応援していた。酔った勢いで、嫁に「俺もバイクがあったら出るのにな」翌月、嫁がバイクを買って来た。逃げられない。



練習、嫁に尻を叩かれた練習。今年10月伊良部島シヨートトリアスロン挑戦し無事完走。「待つてる全日本、家族で手を繋いでゴールを目標に。」

施設長リレーエッセー

「最近気になっていること」川柳(7選)



救護施設いしみね救護園

園長 川原 伸壮

以前からサリリーマン川柳が好きです。下手なりに幾つか自作してみました。まずは、日常生活でのほやきから...

● 馴れぬ家事 毎日やっても 妻は無視

※ 家事育児をまかせっきりにしてきたつげが...

● 流行(はやり)でもミニスカばあやめときや

※ 長い夫婦生活、腹いせもたまには...

● 宝くじ 期待するほど いつもダメ

※ 誰しも6億円当たりたいものだ。

● 馬鹿息子 席次下降も 塾送り

※ 塾代もばかにならないのに...

次は、仕事面で感じていることなどを

● まだ寝ない 廊下にぎやか 救護園

● 当園ならではの深夜勤務の日常。

● まず家庭 続いて仕事 今どきは

※ 今どき職員の仕事観を反映しています。

● 救護園 元氣ハツラツ 新人よ

※ 明るく元氣な姿勢が頼もしい。

最後に、旧日本海軍大将山本五十六のやつてみせ、言つて聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉が、亭主としてまた施設管理者として改めて身にしみる今日この頃です。



利用者横断のため看板を設置



毎朝手入れを欠かさない花壇はお花満開!